

遠距離介護の試行錯誤 ―テレビ電話で母をみる―

(第6回)

家族の会会員 長坂 寿俊

[GPS 携帯での居場所確認]

携帯電話のテレビ電話機能を使えば、実家の居間での母の様子は確認できますが、居間にいない時はどこで何をしているのかわかりません。電話をかけても少し離れた場所にいると、耳が遠くて聞こえません。何時間も姿が見えない時は、庭で草引きをしているのか、2 階で片づけをしているのか、倒れているのか、それとも外に出て徘徊しているのかわからず不安になります。

この問題を多少とも解決するために、GPS 機能の付いた携帯電話を購入しました。この携帯電話を母の外出用手提げバッグの中にそっと忍び込ませておくことにしたわけです。母は出かける時は必ず手提げバッグを持ち歩きます。玄関の外カギをバッグに鎖で取り付けてあるからです。デイサービスにもこのバッグを持って行きます。そのため、母が混乱しないよう、他のバッグ類はすべて隠しました。これで GPS 携帯の入ったバッグの在りか、すなわち母の居場所は、私の携帯電話やパソコンからいつでも探索できるようになりました。GPS 携帯の所在が家の付近に表示される時は、母がまだ家の中や玄関付近にいることを意味します。一方、母がデイサービスの送迎車に乗っている時は、京都市街の地図上にその移動ルートが詳細に表示されます。カーナビと同じです。まるで、映画で逃走する犯人の車を上空から追っているような気分です。

この GPS 携帯は母の居場所確認のみに使うので、バッグの中で母に気づかれない場所にセットし、GPS 以外の電話機能は OFF、もちろん音も鳴らないようにしておかねばなりません。

[カーシェアリングの利用]

母の食料や日用品の買い出しには、近所の商店街までミニ自転車で何回か往復していました。ところが、1～2 週間分の食料となると結構量が多く、特に雨の日の買い物は嫌なものです。

最近、京都でもカーシェアリングという新しいレンタカーのシステムが普及し始めました。自宅の近くにも数か所のカーステーション(1～2 台の軽自動車のレンタカーが配置されている無人駐車場が多い)があります。携帯電話で空車を探して予約が取れば、会員カードを車にかざすだけでドアロックが解除され、車を自由に使うことができます。利用は 15 分単位、空いていれば予約変更して延長も可能、非常に便利なシステムです。郊外的大型スーパーにも買い物に行くことができます。

[認知症と家電製品、つづき]

第 2 回でも書きましたが、認知症の人にとって最新の機器を使うのは非常に難しいことです。

昔ながらの蚊取り線香はもちろん危なくて使えません。液体電子蚊取りの電気コード付きは母が勝手にコンセントから外してしまうのでダメ、乾電池式の液体蚊取りを母の目につきにくい所に置きました。説明書によると 90 日セットは、1 日 8 時間通電で 90 日効く薬剤がセットされているとか。1

日 24 時間常時通電にすると 30 日分でしょう。乾電池はそんなに持ちません。1～2 週間で帰省する度に交換することになりました。

母は耳も遠くなってきたので、玄関ドアチャイムが鳴っても気づかないことが多くなりました。仕方がないので、電器店でチャイムの部品とコードを買ってきて居間や台所に 3 か所ほど増設しました。とりあえず、これらが同時に鳴ると結構な大音響になります。

風呂の給湯の手順は浴室のタイルに書きました。『風呂の湯を入れる時は、 1. 左のボタンを押すと電気が入る、 2. 右のボタンを押すと湯が入る、 出るときは左のボタンを押して電気を消す』、要介護度が進んでくると入浴することさえ忘れてきますが、たまに、朝、電話すると、「今、風呂に入っていた」と言うことがありました。時々自分でも入浴していたようです。別に毎日風呂に入らなくても死ぬことはないので全く



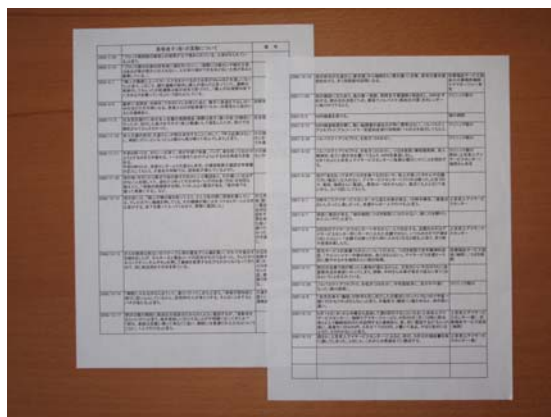
心配していません。

前にも述べましたが、全自動洗濯機もボタンが多くて混乱します。標準コースに設定して他のボタンは押せないようにガムテープで隠してあります。壁には、『1. フタを開ける、 2. 洗濯物を入れる、 3. 粉せっけんを入れる、 4. フタを閉める、 5. 切/入 を押す、 6. スタート を押す、 7. 終わったら洗濯物を出す』と書いた紙を張り付けました。母が水道栓のハンドルの開閉状態も理解できなくなったので、常時開栓にしてハンドルを回せないようガムテープで固定しました。ところが、洗濯機もだんだん使わなくなり、下着やタオル等は洗面所で手洗いすることが多くなってきたようです。



[母の言動についてのメモ]

母の言動が気になり始めた頃から、メモを記録しています。そろそろ 4 年半になりますが、物忘れがひどい、季節、日時、場所、人がわからなくなる、被害妄想がある、という症状も年々変化してきます。専門医やケアマネージャーと認知症に関する相談をする際にはこのようなメモがあると役立ちます。



・・・母の一人暮らしもそろそろ限界に近づいてきました。次回では、母を京都からつくばに連れてくる顛末のあれこれについて書くことにしましょう。